

第1学年 社会科（歴史的分野）学習指導案

日 時：平成17年11月15日（火）5校時
場 所：宮古市立津軽石中学校1年B組教室
対 象：同校 1年B組 23名
指導者：同校 教諭 大久保 浩 一

1 単元名 第3章「中世の日本」 教科書：東京書籍「新しい社会 歴史」(47～70頁)

2 小単元名 2「東アジア世界とのかかわりと社会の変動」 (56～70頁)

3 単元と学習指導要領の関連について

本単元は、学習指導要領〔歴史的分野〕の内容(3)「中世の日本」に関連するところである。この大項目では、12世紀～15世紀ごろの我が国の歴史を扱い、中世における武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きを学習する。(3)は、中世における武家政治の展開と社会、文化の変化という観点でア・イの二つの中項目から構成されている。

教科書では、本単元を、下表のように1「武士の台頭と鎌倉幕府」と2「東アジア世界とのかかわりと社会の変動」(本小単元)の二つの小単元で構成している。時系列で二つに区分しており、それぞれにおいて、学習指導要領の内容(3)の二つの中項目ア・イについて学習するように成っている。

【単元の構成】

小 単 元 名	学習指導要領の内容(3)に示された中項目のねらい
1「武士の台頭と鎌倉幕府」 (4時間)	ア 武士が台頭し、武家政権が成立したこととその後の応仁の乱後までの武家社会の展開を理解させるとともに、その間の東アジア世界とのかかわりに気付かせる。
2「東アジア世界とのかかわりと社会の変動」 (5時間)	イ この時代の諸産業の発達と社会の変化を理解させるとともに、新たな文化の特色について考えさせる。

4 生徒の実態

生徒は、小学校第6学年で武士の世界について学んでいる。源平の戦いや鎌倉幕府の始まり、元との戦いという出来事、源頼朝などの人名、金閣寺など室町時代の文化遺産については多くの生徒が理解していると思われる。しかし、今年度学習定着度状況調査の小学校の既習事項の設問から、平安時代と室町時代の間が鎌倉時代である、といった時代の流れをとらえられていなかった生徒も多く、まして、中世における武家社会の展開のあらましやその間の東アジアとの関わり、社会の変化や新たな文化の特色についてとらえられるというところまでは高まっていないと思われる。

なかには、本単元の学習を進めるにあたって必要な基本的な人名や出来事、地名も定着していない生徒もあり小学校で学習したことも想起させながら支援していくことが必要であると考えます。

5 単元の指導にあたって

この時代の学習のねらいの一つは、武士の政権が成立し、その後武家社会が展開し成長していったことについて理解させることである。そしてこの間の東アジアとのかかわりにも気付かせることである。二つには、農業などの諸産業が発達し、民衆の成長とともに、武士や民衆の活力ある新たな文化が作られ、広がっていったことを理解させることである。

人名や出来事、文化遺産について羅列的にとらえさせるのではなく、時代の大きな流れや出来事の因果関係が説明できるように学習を進めていきたい。また、この時代のなかで、武士だけではなく農民の立場にも注目して生活について考えられるように進めていきたい。

一斉学習では、発言が特定の生徒に偏る傾向がある。小集団を組み、効果的に指導を進めたい。また、基本的な史実に関わる地名やその位置についても、白地図を使った作業等を通して確実に定着させるようにしたい。

6 単元の指導目標

中世（12～15世紀）における武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きをとらえさせる。

7 単元の指導目標に関する評価の観点とその規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きに関心をもち調べようとしており、文化遺産を尊重しようとしている。	武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きから課題を見出し、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察することができる。	武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きに関するさまざまな資料を収集し、適切に選択し活用することができる。	武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きを、我が国の歴史と関わる東アジア世界の歴史を背景に理解することができる。

8 単元の指導計画並びに評価計画

別紙「学びカード」を参照。

学習内容 ()は累計時間		評価規準 上段は観点、()は評価方法	具体の評価規準 は支援
1 武 士 の 台 頭 と 鎌 倉 幕 府	武士の成長 (1)	知 政権の移り変わりに着目しながら、武士が登場し成長していく様を理解している。 (ノート、行動観察)	A 武士の力を高めていった主な戦乱の時期と場所も説明できる。 穴埋め問題に取り組みせ、答えを確認する 49頁上の資料を参考にさせる
			B 武士がどのようにして登場し、力をのばしていったのかをつかむことができる。 机間巡視による助言、小集団での教え合い 武士の登場場面と成長場面を分けて
	武家政権の 成立 (2)	思 平氏が倒され、鎌倉幕府が成立する歴史の流れをとらえながら、鎌倉幕府が支配を全国に広げることができた理由を考えることができる。 (ノート、行動観察)	A 朝廷や西国武士の力も抑え、支配を西国にまで及ぼすことができた理由にも気づいている。 課題を与え、まとめの後段で紹介させる 承久の乱の影響を箇条書きにさせる
			B 武士の支配をしいに全国に広めていった武家政治の工夫点を指摘することができる。 机間巡視による助言、小集団での教えあい ヒント：武士をどのようにして動かすか
武士と 民衆の動き (3)	技 武士と農民の生活ぶりを絵巻物や読み物資料からよみとり、社会の変化について考えたことをまとめたり、説明したりしている。 (ノート、行動観察)	A 武士と農民の関係を表したエピソードにも触れ、まとめることができる。 課題を与え、まとめの後段で確認する 53頁下のコラムを読ませる	
		B 武士と農民の生活の様子を、絵巻物や読み物資料から想像しまとめることができる。 小集団での教え合い、一斉に補充指導 VTRを視聴させイメージをもたせる	
鎌倉時代の 宗教と文化 (4)	技 武士や民衆の活力を背景に生み出された新しい仏教の教えや文化の特色を、絵巻物や図版を活用し、まとめたり説明したりしている。 (ノート、行動観察)	A 武士や農民の生活の様子と関わらせ、平安時代の文化との違いも指摘することができる。 既習事項を参考にさせる 44・45頁、VTR	
		B 絵巻物や図版から、新しい仏教の教えや文化の特色を挙げるすることができる。 小集団での教え合い、一斉に補充指導 VTRを視聴させイメージをもたせる	

東 ア ジ ア 世 界 と の か か わ り と 社 会 の 変 動	モンゴルの襲来と日本本時 (5)	思	東アジア世界の状況をおさえながら、鎌倉幕府が滅亡した理由を、元寇の影響や政治、社会の変化から考えることができる。 (ノート、行動観察)	A	元寇の背景も東アジア世界の動きからとらえることができる。 課題を与え、まとめの後段で紹介させる 3度目の元寇が計画倒れに終わった理由
		B		鎌倉幕府が滅亡した理由を、元寇の影響や政治、社会の変化から指摘することができる。 机間巡視による助言、小集団での教え合い 「御恩」「奉公」を想起させる	
	南北朝の動乱と東アジアの変動 (6)	思	室町幕府と中国・朝鮮との結びつき、琉球・蝦夷地の動きをおさえながら、南北朝の動乱のなかで武家社会がどのように変化したのかをおさえている。 (ノート、行動観察)	A	幕府と中国・朝鮮との結びつきや琉球・蝦夷地の動きもとらえることができる。 穴埋め問題に取り組みせ、答えを確認する 学習シート
		B		朝廷の政治が長続きせず、再び武士が国を支配するようになった理由を指摘することができる。 机間巡視による助言、小集団での教え合い 朝廷が武士を動かさなかった理由	
	室町幕府の経済の発展 (7)	知	室町幕府の支配体制が整い、中国・朝鮮との貿易が行われるなか、産業が発達し、職業が多様化していく様を理解している。 (ノート、行動観察)	A	社会の安定や中国・朝鮮との貿易が社会に与えた影響もとらえることができる。 課題を与え、まとめの後段で紹介させる 日明貿易のあらまし
		B		室町幕府のしくみのおおよそをまとめ、どのように産業が発達したかをとらえることができる。 小集団での教え合い、一斉に補充指導 図版「室町幕府のしくみ」の提示	
	民衆の成長と戦国大名 (8)	思	室町時代に民衆が団結し、後半には戦国大名が登場した原因を一揆や戦乱が起こった場所と関連付けながらおさえている。 (ノート、行動観察)	A	一揆や戦乱は主にどの地方を中心起こったかもとらえることができる。 穴埋め問題に取り組みせ、答えを確認する 学習シート
		B		土一揆や国一揆、一向一揆が起こり、戦乱が全国に及んでいった理由を、指摘できる。 机間巡視による助言、小集団での教え合い 一揆や戦乱の力の源	
	室町文化とその広がり (9)	関	行事・和室の調度品等、現代に受け継がれているものに関心を持ち、室町時代の文化の特色が形成されていく社会の背景をおさえようとしている。 (ノート、行動観察)	A	室町時代に生まれた文化で現代に受け継がれているものを見出だそうとしている。 課題を与え、まとめの後段で紹介させる 資料の提示、生活経験の交流
		B		室町時代の文化の特色がどのような背景から生まれたものかをとらえようとしている。 小集団での教え合い、一斉に補充指導 VTRを視聴させイメージをもたせる	

9 本時の指導

(1) 本時の指導について

生徒たちは、元軍の襲来に対し鎌倉幕府の呼びかけに応じた武士たちが、多くの費用を使い、命がけで戦ったが、ほうびの領地をもらうことができず、しだいに幕府に対して不満をもつようになったことを、小学校6年生で既習している。ここでは、さらに、元の侵略を東アジアとの関わりのなかでとらえながら、鎌倉幕府が滅亡した理由を元寇の影響や政治、社会の変化から考えさせる授業を展開したい。元寇の背景となる東アジアの動きにふれながら、鎌倉幕府の基盤である「御恩」「奉公」の関係が崩壊していった時代の大きな動きをおさえさせたい。

指導にあたっては、板書や学習シートを工夫し、年表を用いて時代の大きな流れをとらえさせたり、地図をつかって元の領土の広大さをおさえさせたりしたい。

(2) 本時の目標

東アジア世界の状況をおさえながら、鎌倉幕府が滅亡した理由を、元寇の影響や政治、社会の変化から考えることができる。(社会的な思考・判断)

(3) 本時の展開

段階	学習活動・おさえない事項	形態	指導上の留意点〔 資料・ 評価 〕										
導入	<p>ア 学習内容の確認 (1分) 「モンゴルの襲来と日本」を板書で確認する。</p> <p>イ 既習事項の想起 (3分) (ア) 鎌倉時代の期間 (1192年～1333年) 板書で確認し、メモする。 (イ) 鎌倉幕府の基盤(「御恩」「奉公」) 鎌倉時代の日本は、幕府と朝廷の二重支配の時代であり、幕府が全国を支配する基盤が「御恩」「奉公」の関係であることを、板書で確認しメモする。 (ウ) 幕府の支配力の強まり(「承久の乱」) 朝廷軍をも打ち破った幕府軍の強さの背景にも「御恩」「奉公」の関係があることを再確認しながら板書で確認し、メモする。</p> <p>ウ 問題の把握 (5分) (ア) 東アジア世界の状況 鎌倉時代の東アジアの状況を、板書(年表と地図)で確認し、メモする。 (イ) 鎌倉幕府の滅亡 1333年に鎌倉幕府がほろんだことを、板書で確認しメモする。</p> <p>エ 学習課題の設定 (5分) 承久の乱で朝廷の軍を破り、支配力を高めた幕府だったが、およそ100年の後ほろんだという事実から、課題を設定する。 「なぜ幕府はほろんだのだろうか。」 「誰が幕府をほろぼしたのだろうか。」 「小学校で習った元軍が関係あるのか。」</p>	<p>一斉</p> <p>14分</p> <p>個別</p> <p>一斉</p>	<p>学習シートを配布 ・ 紙版書を用意。 【12～15世紀の動き】()はマスキング、□は後で貼る。</p> <table border="1"> <tr> <td>世紀</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>日本</td> <td>平安時代</td> <td>(鎌倉時代) 幕府・朝廷の二重支配</td> <td></td> <td>室町時代</td> </tr> </table> <p>出来事</p> <p>中国 宋 モンゴル (元) 明 朝鮮 高麗 朝鮮</p> <p>【鎌倉幕府の基盤】 </p> <p>【鎌倉時代の東アジアの様子】 </p> <p>元はモンゴル民族が築いた帝国の一部 元の皇帝は(フビライ・ハン) 高麗は元の属国</p> <p>・ 板書は計画的に</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>鎌倉幕府はどのような理由でほろんでいったのだろうか。</p> </div> <p>課題をメモする。</p>	世紀	12	13	14	15	日本	平安時代	(鎌倉時代) 幕府・朝廷の二重支配		室町時代
世紀	12	13	14	15									
日本	平安時代	(鎌倉時代) 幕府・朝廷の二重支配		室町時代									
展開	<p>オ 予想、追究のポイントの確認 (3分) 答えの予想をするとともに、課題を解決するためには、何について調べればよいかを確認し、学びカードにチェックする。</p> <p><予想される予想> 幕府が元寇のせいでは弱っていた。 強い人が出てきた。 他</p> <p>カ 課題の追究 (25分) (ア) 課題についての調査・交流 (15分) 【幕府側の理由】をつかむ ・ 幕府は2度にわたって元と戦い、御家人を動員し、多額の費用をつかった。 (元軍に苦戦＝集団戦法、火器) (石塁の整備)</p>	<p>一斉</p> <p>10分</p> <p>個別</p>	<p>・ 出された予想を受容しながら、追究の2つのポイントを与えていく。 【幕府側の理由】 【滅ぼした側の理由】</p> <p>教科書56・57頁「2度の元寇」「鎌倉幕府の滅亡」、資料集29頁、学習シート 追究のポイント・方法がわかったら、学びカードの星印を1つ塗りつぶさせる。</p> <p>・ 机間巡視し、学習シートの取組状況を観察する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>鎌倉幕府が滅亡した理由を、元寇の影響や政治、社会の変化から指摘することができているか。(具体的評価規準B)</p> <p>支援 机間巡視により、下位の生徒には、個の段階で助言を与えたり、小集団での教え合いで上位の生徒に支援させたりする。ヒントとして「御恩」「奉公」の図に注目させる。</p> </div>										

<p>33分</p>	<p>「元寇」の語句と襲来時期をおさえる。 (1274年文永の役・1274年公安の役)</p> <ul style="list-style-type: none"> 命がけで奉公し、元軍と戦うが、分割相続により御家人の生活が苦しくなる。 幕府に反感(奉公しなくなる) 執権北条氏の失政が続く (「徳政令」も効果なし) 幕府に従わない武士の成長 (悪党:年貢を奪う) <p>【滅ぼした側の理由】をつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> 後醍醐天皇に有力な御家人や新興武士の味方が終わったら、発展課題に取り組む。 高麗や中国南部、ベトナムで元に反抗する動きが強まり、3度目の元寇は実施せず。 <p>(イ) 調査結果の共有化(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小集団で調べたことを共有化する。 <p>キ 課題の解決(5分)</p> <p>課題について分かったことを文章にまとめて発表する。</p>	<p>小集団 5分</p> <ul style="list-style-type: none"> 年表(紙版書)に付け足していく。 PCでモンゴル帝国の領域、防塁等のスライドを提示 「蒙古襲来絵詞」に触れる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>元寇の背景も東アジア世界の動きからとらえることができるか。(具体的評価規準A)</p> <p>支援 Bに達した個(小集団)には発展課題を与え、答えを(イ)のところで紹介させる。</p> </div> <p>「後醍醐天皇像」の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> 板書は計画的に <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【幕府側の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多額の費用を使う 御家人の生活苦 幕府に従わない武士(悪党) 執権北条氏の失政 <p>主従関係が崩れる 「御恩」と「奉公」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【滅ぼした側の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝廷に実権を取り戻すために挙兵 後醍醐天皇 + 足利尊氏(有力御家人) 新田義貞(新興武士) </div> </div> <p>【まとめ】</p> <p>東アジアで勢力を持った元が襲来したことをきっかけに、鎌倉幕府の「御恩」と「奉公」の関係が崩れ、新興の武士や有力御家人を味方に付けた後醍醐天皇に、1333年鎌倉幕府は滅ぼされた。</p>
<p>終末 3分</p>	<p>ク 本時の振り返り(2分)</p> <p>達成度をチェックし、学習したことについての感想・さらに学習したいことを学びカードに記入する。</p> <p>ケ 次回の確認(1分)</p> <p>次時に学習することを確認する。</p>	<p>個 一斉</p> <p>学びカードに、課題の答えを出すことができた生徒は星印2つ目を、発展課題にも取り組めた生徒は3つ目も塗りつぶさせ、感想を記入させる。</p> <p>本時の学習への取り組みを評価するとともに次時の学習事項を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学びカードと学習シートを回収する。

(3) 板書計画

p.56 第3章 - 2 - 1 モンゴルの襲来と日本

世紀	12	13	14	15
日本	平安時代	(鎌倉時代) 幕府・朝廷の二重支配		室町時代

出来事	源頼朝	鎌倉幕府の成立 1192	承久の乱 1221	文永の役 1274	弘安の役 1281	鎌倉幕府がほろぶ 1333	後醍醐天皇	足利尊氏	楠木正成
-----	-----	-----------------	--------------	--------------	--------------	------------------	-------	------	------

中国	宋	モンゴル	(元)	明
朝鮮		高麗		朝鮮

【鎌倉幕府の基盤】

将軍
↑
(御恩)
↓
御家人
↑
(奉公)

【鎌倉時代の東アジアの様子】

元はモンゴル民族が築いた帝国の一部
元の皇帝は(フビライ・ハン)

高麗は元の属国

【学習課題】

鎌倉幕府はどのような理由でほろんでいったのだろうか

【予想】

{ ; }

<追究のポイント>

【幕府側の理由】

- 多額の費用を使う
- 御家人の生活苦
- 幕府に従わない武士(悪党)
- 執権北条氏の失政

主従関係が崩れる
「御恩」と「奉公」

【滅ぼした側の理由】

- 後醍醐天皇
- ・ 天皇中心の政治をねらう
- + 足利尊氏(有力御家人)
- 楠木正成(新興武士)

【まとめ】

東アジアで勢力を持った元が襲来したことをきっかけに、鎌倉幕府の「御恩」と「奉公」の関係が崩れ、新興の武士や有力御家人を味方に付けた後醍醐天皇に、1333年鎌倉幕府は滅ぼされた。

【歴史】 第3章 「中世の日本」

3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
弥生/	古墳時代				奈良	平安時代					室町時代			江戸時代		

12～15世紀の日本で、政治の中心をになう者が貴族からどのような身分の者になっていくのか、そして、その後の政治や社会、文化はどう変わっていくのかを学んでいきます。時代の変化をつかんでいきましょう！

節	学 習 内 容	観 点	達 成 度 チ ェ ッ ク	感 想 ・ も っ と 知 り たい 事 物
1 武士の台頭と鎌倉幕府 (10世紀中ごろ～13世紀はじめ)	1 武士の成長 〔p.48・49〕 ・武士の登場 ・武士の登場と院政 ・荘園と武士	【知識・理解】	武士の力を高めていった主な戦乱の時期と場所も説明できる。	[月 日 () 校時
			武士がどのようにして登場し、力をのばしていったのかをつかむことができる。	
	2 武家政権の成立 〔p.50・51〕 ・源平の争乱 ・鎌倉幕府の始まり ・執権政治	【思考・判断】	朝廷や西国武士の力も抑え、支配を西国にまで及ぼすことができた理由にも気づいている。	[月 日 () 校時
			武士の支配をすだいに全国に広めていった武家政治の工夫点を指摘することができる。	
	3 武士と民衆の動き 〔p.52・53〕 ・武士と地頭 ・武士の生活 ・民衆の動き	【技能・表現】	武士と農民の関係を表したエピソードにも触れ、まとめることができる。	[月 日 () 校時
			武士と農民の生活の様子を、絵巻物や読み物資料から想像しまとめることができる。	
	4 鎌倉時代の宗教と文化 〔p.54・55〕 ・新しい仏教の教え ・文化の新しい動き	【技能・表現】	武士や農民の生活の様子と関わらせ、平安時代の文化との違いも指摘することができる。	[月 日 () 校時
			絵巻物や図版から、新しい仏教の教えや文化の特色を挙げることができる。	
2 東アジア世界とのかかわりと社会の変化 (13世紀はじめ～16世紀中ごろ)	1 モンゴルの襲来と日本 〔p.56・57〕 ・モンゴル帝国の拡大 ・2度の元寇 ・鎌倉幕府の滅亡	【思考・判断】	元寇の背景も東アジア世界の動きからとらえることができる。	[月 日 () 校時
			鎌倉幕府が滅亡した理由を、元寇の影響や政治、社会の変化から指摘することができる。	
	2 南北朝の動乱と東アジアの変動 〔p.58・59〕 ・南北朝の動乱 ・東アジアの変動 ・琉球と蝦夷地	【思考・判断】	幕府と中国・朝鮮との結びつきや琉球・蝦夷地の動きもとらえることができる。	[月 日 () 校時
			朝廷の政治が長続きせず、再び武士が国を支配するようになった理由を指摘することができる。	
	3 室町幕府と経済の発展 〔p.60・61〕 ・室町幕府のしくみ ・産業の発展 ・市のにぎわい	【知識・理解】	社会の安定や中国・朝鮮との貿易が社会に与えた影響もとらえることができる。	[月 日 () 校時
			室町幕府のしくみのおおよそをまとめ、鎌倉幕府との違いをとらえることができる。	
	4 民衆の成長と戦国大名 〔p.62・63〕 ・村の自治 ・応仁の乱 ・戦国大名の登場と都市	【思考・判断】	一揆や戦乱は主にどの地方を中心に起こったかもとらえることができる。	[月 日 () 校時
			土一揆や国一揆、一向一揆が起こり、戦乱が全国に及んでいった理由を、指摘することができる。	
	5 室町文化とその広がり 〔p.64・65〕 ・室町の文化 ・武家文化の成長 ・文化の広がり	【関心・意欲】	室町時代に生まれた文化で現代に受け継がれているものを見出そうとしている。	[月 日 () 校時
			室町時代の文化の特色がどのような背景から生まれたものかをとらえようとしている。	

組 氏名 ()